

東山中学区を通る 3つの街道



東海道



鎌倉街道



大浜街道

～東海道・鎌倉街道・大浜街道を訪ねて～

東山中学校 1年5組 5番 岩館春佳

＜きっかけ＞

私が住む尾山奇町には、熊野神社という神社があり、東海道と鎌倉街道が交わる場所であることから、「踏分の森」と呼ばれています。そこで、夏休みを使って東山中学区を通る3つの街道(東海道・鎌倉街道・大浜街道)を調べてみることにしました。

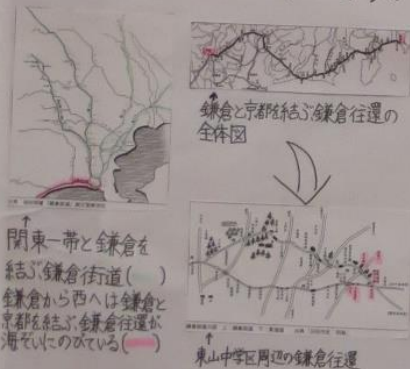
＜方法＞

本やインターネットを使い、3つの街道について調べました。また、実際に今残っている3つの街道の跡地を自転車であぐり、そこに残っている史跡について調べました。

鎌倉街道とは？

鎌倉街道には大きく2つの種類があります。1つは東国一帯に展開した幕府の御家人が「いざ鎌倉」という時に鎌倉に駆けつけるための道です。もう1つは幕府と京都を結ぶ京・鎌倉往還になります。東山中学区を通るのは、京・鎌倉往還になります。平安時代末から室町時代までの400年の間使われていましたが、1601年に徳川家康により東海道が制定されると、使われなくなりました。今ではほとんど当時の道は残っておらず、東山中学区には、熊野神社の周りと、不乗森神社周辺にわずかに残るのみとなっています。

鎌倉街道は政治的なやり取りに使われた他、源平の時代には多くの軍隊が通ったと考えられています。宿の設置や管理は各地の守護や地頭に任されていたため、東海道のように全区間できちんと整備はされていませんでした。



東海道とは？

慶長6年(1601年)に徳川家康が「東海道の宿場制度と伝馬制度」を發布。江戸日本橋から京三条大橋に至るまで、53の宿場がつくられました。(これがいわゆる「東海道五十三次」,「次」は「宿場」の意味)。寛永元年(1624年)に完成しました。当初は関ヶ原の合戦に勝利した徳川家康が全国統一を果たすために、江戸と朝廷や豊臣氏の居城がある京都や大阪との連絡を迅速に行うためにつくられた軍用道路でした。寛永12年(1635年)「武家諸法度」が定められ、参勤交代が始まると、大名行列により交通量が増え、街道や宿場施設の



整備が進みました。江戸中期には、経済力をつけた町民が伊勢参りの旅を楽しむようになり、東海道も政治・軍事的な道から多くの庶民の旅する道へと変わっていきました。

↑
東山中学区には、岡崎宿から池鯉鮒宿の間の東海道が通っている。

大浜街道とは？

東海道が整備された後、岡崎宿と池鯉鮒宿の間に旅人たちの休憩の場所として、大浜茶屋と宇頭茶屋がつけられました。大浜茶屋から大浜(現在の碧南市)へ通じる道が大浜街道といいますが、湊町の大浜から塩や海産物を内陸に運ぶのに使われた塩の道の一部です。三河湾でとれた塩は足助まで運ばれ、そこから馬で信州まで運ばれていました。



↑
大浜から長野まで続く塩の道

鎌倉街道と東海道の違い

- ① 道の幅 ... 鎌倉街道 馬2頭が並んでやと通れる道幅(約2m)
東海道 2間(約3.6m)~6間(約10.1m)
- ② 宿場 ... 鎌倉街道 鎌倉時代に宿場が出現(27次)次第に拡大(室町時代は62次)
東海道ほど整備されてはいなかった。
東海道 53次 宿場町や茶屋を中心に町が発展していった。

松並木は何のため？

江戸時代、徳川家康は大久保長安に命じ、五街道(東海道・中山道・日光街道・奥州街道・甲州街道)に松並木を植えさせました。街道を行き交う旅人を歩きやすくするためと考えられています。並木は夏は日除けになり、冬は風を防ぎ防寒の役割があります。現存する226本の松のうち、大きいものは樹齢200~250年と推定されています。

東山中学区を通る三つの街道とその周辺にある史跡



鎌倉街道について

↑上の地区の---にあたる場所

宮橋から熊野神社までの鎌倉街道は今は残っていません。いくつかの史料により、およその位置を推測することができるのみです。安城市史では、東山中学校を挟んで西側を江戸期鎌倉街道、東側を中世の古鎌倉街道跡地と説明されています。時代を経るにつれて、街道の位置が移り変わっていることがわかります。

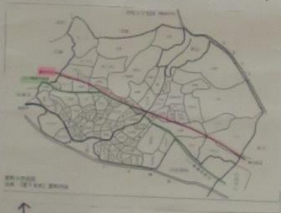
〈出典・参考文献〉

新編安城市史1,2

名残の道 鎌倉街道濱田ルート 渡邊健二 著



刈谷市泉正寺に伝わる鎌倉街道図
 (江戸時代末期に刈谷藩士 浜田与四郎雅昌が聞き取り調査により作成した復元図)



↑古鎌倉街道と江戸期鎌倉街道のおおよその位置関係



↑刈谷藩士浜田与四郎雅昌の記録を元に復元した鎌倉街道

①花の瀧伝承地



花の瀧は、鎌倉街道沿いの菖蒲池地内にありました。室町時代(1660年)飯尾宗祇の「名所方角針」に八橋八景の一つとして記されています。「新古今歌集」代表的歌人慈円の歌「風わたる花をみかはの八橋のくもでにかかる滝のしらいと」が花の瀧を詠んだ歌として伝承されています。

②縄文ニタ股遺跡



←梅泉庵
芳水が
詠んだ歌碑



不乗森神社の東の道を北に進んだ四つ角にあり、ここで古鎌倉街道と江戸期鎌倉街道が交わっていたと考えられています。街道碑には「馬下りて神の威徳をかしこみて鎌倉街道過ぎしものふ」と記されています。鎌倉街道を行き交う武士たちが馬から降りて神社前を通ったという不乗森神社の由来となっています。

③不乗森神社



冷泉天皇の時代(968~970年、平安時代中期)に近江国坂本(滋賀県大津市)の日吉大社により観請(分霊を他の神社に移すと)したと伝えられています。「見ざる、言わざる、聞かざる」の教えは日吉山王神道の基礎となる教えであり、神猿として祀られています。毎年3月9日に行われる湯立神事は、安城市の無形文化財に指定されています。

④宮橋



不乗森神社裏の鎌倉街道を東へ700m行くと、猿渡川が流れており宮橋と呼ばれる橋がかかっています。貞応2年(1223年、鎌倉時代)に著された「海道記」(著者鴨長明・源光行)に、宮橋について詠んだ歌があります。「宮橋の残るはしらは言問はん朽ちて幾世かたえわたりぬる」—宮橋の残る柱に尋ねよう。朽ちてからどのくらい絶えたままでいるのか?—渡し板が朽ちて八本の柱のみ残った宮橋を見て、詠まれた歌です。
※猿渡川の由来... 古来不乗森には、猿が生息しており、猿たちが宮橋を行ったり来たりしていました。その情景を見た村人たちが「猿渡川」と呼ぶようになりました。

⑤ 熊野神社



↑ 鎌倉街道と思われる道
森の先ではつきあたりになっている

鎌倉時代の工芸品とされる薬師如来懸仏と室町時代の彫刻、木造不動明王立像(市指定文化財)を有する神社です。鎌倉街道は、不乗森神社から証文山の東を通り熊野神社に達していました。街道はここで右に曲がり、南東へ下がっていったので、この神社の森を「踏分の森」と呼んでいます。この先、街道は西別所町を通り、山崎町に出て岡崎市に向かいます。熊野神社の森の西側に鎌倉街道だと思われる道が一部残っています。



↑ 一里塚があったとされる場所の地図

熊野神社は東海道にも面しており、一里塚跡の碑が建っています。慶長9年(1604年)徳川家康は秀忠に命じ、全国の街道に一里塚(約4km)塚を設置しました。塚は約9mの土地に4m程の土盛りし、松や榎を植えて目印にしたものです。旅人はこれを目安にして旅をしました。街道を挟んで左右一対で在存し、実際には一里塚跡碑から西方約70mの場所にあたとされています。

⑥ 永安寺



↑ 雲竜の松

永安寺は大浜茶屋(現在の浜屋町)の庄屋柴田助太夫の霊をまつる寺です。この寺を覆い包むように横に枝を広げたクロマツは、樹齢300年と推定され、県指定天然記念物に指定されています。枝は北西、南、東の3方向に伸び、枝張りは東西17m、南北24mにおよびます。その幹が地をはうように見える形が雲をえてまさに天に昇ろうとする竜を思わせるので「雲竜の松」と呼ばれています。

⑦ 柴田助太夫墓碑



柴田助太夫墓碑は浜屋町の共同墓地の一角にあります。柴田助太夫は大浜茶屋村の床屋でしたが、1677年(延宝5年)貧しい村人のために助郷役の免除を願い出て刑死したと伝えられています。刈谷藩は助太夫を死罪としましたがその後大浜茶屋村の助郷役は免除となりました。村では領主の代替わりごとに助太夫一件を話し、助郷役の免除を認めてもらっていました。

※助郷役とは?

宿駅伝馬制度により、各宿場は公用の書状や荷物を次の宿場まで届けるために必要な人馬を用意しておかなければなりません。しかし、参勤交代により交通量が増大すると、宿場に用意されている人馬だけでは足りなくなり、近隣の村々から人馬を集めてこなさなければならぬ状態でした。これが制度化して宿ごとに補助する村を定めたものを助郷制といいます。

⑧大浜街道跡地



大浜街道は、江戸時代に碧南から足助に向かって塩の俵を積んだ馬が通った道(塩の道)といわれています。大浜茶屋(現在の浜屋町と宇頭茶屋町)で東海道と交差し、北へ向かいます。安城と豊田の市境いに大浜街道跡地の碑が建っています。



安城と豊田の市境に跨る大浜街道
東海道と大浜街道が交差する所(右奥に向かう道が大浜街道)

※大浜茶屋について

大浜茶屋村は、元来土地が狭く用水もないため、田はなく火田ばかり

でした。村高は35石で農業のみで生活できる状況ではありませんでしたが、茶屋を営むことで村は発展していきました。当時の大浜茶屋には茶屋以外にも居酒屋、甘酒屋、まんじゅう屋、菓子屋などがありました。わさびおろしとしょうゆで味付けされたそば切が名物となっていました。

⑨明治川神社



明治18年(1885年)に明治用水開きの関係者(都築弥厚伊豫田与八郎、岡本兵松)を守護神として合祀する神社として創建されました。

明治用水開発以前の安城は、安城ヶ原と呼ばれるやせた土地でした。明

治用水完成後の農業の発展はめざましく、「日本のデンマーク」と呼ばれる優良農業地帯となりました。

感想

今回3つの街道とその周辺の史跡を調べることで、自分の住む身近な地域にたくさんの史跡があることを知りました。街道の歴史を通して、鎌倉時代から明治時代にかけての地域の歴史を知ることができ、とても興味深かったです。これをきっかけに安城の歴史についても、と知りたくなりました。祖父の話によると、東海道松並木の松の数が台風や虫の被害により、以前より減ってきているそうです。安城に残る史跡をもっと皆に知ってもらい、これからも残していけたらと思いました。

参考文献

歴史の散歩道～東海道と鎌倉街道めぐり～ 安城市教育委員会
旧東海道百二十五里を歩く 一里塚、石碑を訪ねて 残野銀一著
東海道への誘い 横浜国道事務所ホームページ